



子育て支援者の コンピテンシーリスト

Ver.3 ひろばスタッフ基礎編

子育て支援者コンピテンシー研究会

はじめに



このリストは、子育て支援の場に入る皆さんが、支援の際の自分の強みや弱みを知るためのものです。

リストを読んで振り返ることで、

- ・自分や周囲の人の行動に対していろいろな気づきが生まれます。
- ・知らなかった行動は、身につけることができます。
- ・長年無意識でしていた行動を、意識的に変えるためのヒントになります。

複数のスタッフで構成されている子育て支援の場は、場が全体としてその役割を果たせばいいのであって、スタッフ全員が、高度な力量を身につけることが必要なわけではありません。しかし、それぞれのスタッフが、互いの特徴を知って、幅と厚みのある対応のできる場を作っていく必要があります。

リストを読んで、自分の行動に対する誇りや、支援に対する意欲が高まることもあるでしょう。逆に、ショックを感じることもあるかもしれません。そこで、学びを止めるか、さらに深めていくかが分かれ道です。特に、「知っている、できている」と思った方ほど、じっくりと考えてみて下さい。

そして、この「子育て支援者のコンピテンシーリスト Ver.3 ひろばスタッフ基礎編」で自分の活動の意味に気づいたみなさんには、その後、是非、より深い学習を「子育て支援者のコンピテンシーリスト Ver.2」で進めていただきたいと思います。

そうすることで、場が徐々に変化していき、そこに集う人たちの関係性が変化していくと思います。

子育てという何万年も続いてきた地道な生活の一コマを、静かに、より豊かに、現場から、地域から変えていくために、このリストが役立つと私たちは信じています。

解説

このリストには

つどいの広場、地域子育て支援センター、子育てサロンなど、乳幼児を連れて保護者が自由に訪れることのできる場所を用意したスタイルの「居場所・交流型」と呼ばれる子育て支援の場で、親子に直接関わる人たちに必要な行動が整理されています。

居場所・交流型の子育て支援は

主に未就園の子どもと親などに、家庭以外の居場所を提供し、親子の仲間づくりを促し、子どもの育ち・親の育ち・関係の育ちを促進し、地域全体の子育て支援を推進するものです。多様な人が集う、自然な生活の場や気軽な相談の機会を提供することで、親子の関係形成を促し、子育てを始めたばかりの親には育児の体験学習の場としての機能も果たします。

支援のあり方は

子どもの成長発達や保護者の子育てに影響を与えます。たとえば、「してあげる」支援では、受身に依存的な保護者が増えます。当事者が子どもと関わる力や子ども自身の力を高める支援を行えば、居場所での交流を通じて地域の子育て力も高まります。支援する、だけでなく、そのあり方に留意しましょう。

コンピテンシーとは

ある目的を的確・適切に達成するときに必要な能力や技量をいいます。コンピテンシーリストは、支援者がこれら全てを兼ね備えていなくてはならない、ということを示しているものではありません。

このリストの目的は

具体的な行動変化のヒントを示すことです。具体的な行動としてあらわすことのできる側面を中心に項目を作成しています。コンピテンシー概念に基づく学習を始めるきっかけとして、この冊子をご活用下さい。また、経験の充分ある方にも、振り返りの道具として使っていただくことができます。

I 自分の強み・弱みを知る

自分にできるいいところを探してみましょう。謙虚にそれを暖めて、大切にしましょう。

利用者や仲間の立場に立って、自分の苦手そうなところや必要だと気づかなかった行動を確認してみましょう。

2 適性のガイド

コンピテンシーは、適性のガイドとなります。たとえば、対象とするものに寛容であることは、直接親子に携わる子育て支援者には適切ですが、経理の担当者には不適切です。職務によって適切なコンピテンシーは異なりますので、自らの適性について考えてみましょう。

3 自分とチームの研修のために

リストは、支援者の自己研鑽と研修の資料となります。支援者の立場にある人が、一人ひとりの日常の行動を自分自身に問いかけることで、ひろば全体の支援の質を高めることができるようになるでしょう。不完全な私たち。みんなで、補い合いながら、温かい場を作りましょう。

用語について

直接支援者

居場所・交流型支援の場で、スタッフとして交流の輪に入る人たちを、このリストでは「直接支援者」と呼ぶことにします。「直接支援者」が、組織のリーダーあるいは施設管理者を兼ねている場合もあります。「直接支援者」が、有償スタッフの場合も、無償のボランティアの場合もあります。

利用者

このリスト内で「利用者」と表示している場合は、子どもと大人の両方を指しています。「親」と表示している場合は、親、祖父母、養育者などを指しています。利用者も場をつくるメンバーです。

場をつくる

このリストには「場をつくる」ということばがくり返し出てきます。ここでは、「場」とは、単に空間が確保された状態を意味するのではなく、空間に集う人々の関係や、空間に人が集ったときの雰囲気なども含めたものです。ですから「場をつくる」とは、環境を整えたり、さりげなく動いたりすることを意味します。難しい概念ですが、「場をつくる」とはどういうことだろう？とリストを読みながら、少しずつイメージをつくっていただければと思います。

支援の5つのプロセスと コンピテンシー要素一覧



支援の行動は、5つのプロセスから成り立っています。
その中のそれぞれの要素を充実させていくことで、
支援の質が、らせんを描くように向上していきます。

I

環境を設定する 6

- (1) 居心地のよい場をつくる
- (2) 安心感のある場をつくる
- (3) 病気や事故予防に配慮した場をつくる
- (4) 利用者の主体性を尊重した場をつくる
- (5) 人と人の関係が生まれる場をつくる
- (6) 子どもの支援ができる場をつくる
- (7) 親の支援ができる場をつくる

2

関係をつくる 7

- (8) 親しみやすい雰囲気を持つ
- (9) 公平に接する
- (10) 対等な関係をもつ
- (11) 対応を相手に合わせる
- (12) 仲間づくりをうながす
- (13) 場の全体に気を配る

3

課題を知る 8

- (14) 気軽な相談を大切に受けとめる
- (15) 課題がある親子を発見する
- (16) 人としての存在を尊重する
- (17) 多様性を受け入れる
- (18) 個別の問題を関係性の問題としてとらえる
- (19) 相手の問題のとらえ方を把握する
- (20) 寛容な雰囲気の間をつくる

4

支援する 9

- (21) 相手の話を、肯定的関心を持って傾聴する
- (22) 他人の気持ちを想像し、共感的な対応をする
- (23) わかりやすく伝える
- (24) 相手が自分の力に気づく働きかけをする
- (25) 子どもの育ちを支援する
- (26) 特別なニーズを持つ子どもを支援する
- (27) 親と子の関係を支援する
- (28) ねばり強く支援し続ける
- (29) 自分に対応できる親子かどうかの判断をする

5

振り返る・学ぶ 10

- (30) チームワークを尊重する
- (31) 活動の分析を行なう
- (32) 実践のために学ぶ

環境を設定する

- | | |
|-----------------------|----------------------|
| (1) 居心地のよい場をつくる | (5) 人と人の関係が生まれる場をつくる |
| (2) 安心感のある場をつくる | (6) 子どもの支援ができる場をつくる |
| (3) 病気や事故予防に配慮した場をつくる | (7) 親の支援ができる場をつくる |
| (4) 利用者の主体性を尊重した場をつくる | |

環境が居心地の良さに影響を与えることを知っている。	
率先して掃除や整理整頓をし、利用者が気持ちよく過ごすことができる場を用意する。	
歩く速さ声の大きさなど、自分の立ち居ふるまいが周囲にどう受け取られているかを知っている。	
いつも身ざれいにしてている。	
人に笑顔を向けている。	
自分で守秘義務の遵守と、共有しなければいけない情報を判断する。	
場の安全管理を常に行っている。	
支援に必要な最小限の事故防止と感染症の予防を説明できる。	
利用者の主体性を尊重することが大切であると知っている。	
利用者の判断を待つ。	
利用者が主体性を発揮できる場を設定する。	
子どもが自発的に遊びを始められる場をつくる。	
年齢に合わせたおもちゃを準備する。	
生きた多様な体験と観察の中で、親が自然に学べるような場をつくる。	
人と人の関係が生まれる場や時間をつくっている。	
利用者が場を構成する一員として参画する機会をつくる。	
利用者と共に場のあり方を評価し検討する。	

以下は、来場者の不安を増やし、来場者を遠ざける可能性がある項目です。

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者にとって不快な刺激（大声、香水など）を発している。 ・汚れに気づいても掃除をしない。 ・事故の可能性があっても放置する。感染症・アレルギーに関する知識を持たない。 ・子どもにとっての居心地を考えない。支援者が主役になっている。 ・不機嫌な表情や、無表情である。言葉遣いが乱暴である。 ・個人情報了他言してしまう。個人データを放置する。 ・利用者に強制的に参画を求める。 ・子どもは何もなくても育つと思っている。 ・子育ては本能でできているので、学びの場を設定しない。

関係をつくる

- | | |
|------------------|-----------------|
| (8) 親しみやすい雰囲気を持つ | (11) 対応を相手に合わせる |
| (9) 公平に接する | (12) 仲間づくりをうながす |
| (10) 対等な関係をもつ | (13) 場の全体に気を配る |

相手に自分から明るく挨拶をする。	
はじめての人、一人である人に働きかける。	
気軽に話しかけやすい。	
世間話ができる。	
立場や年齢の違いがあっても自分の態度を変えない。	
表面上の特徴や相手の態度に左右されずに接する。	
年齢が高いことやスタッフであることによる権威を相手に感じさせない。	
相手が気軽に話しかけられる。	
相手の視線の高さに合わせて話しかける。	
声の大きさ、スピード、言葉遣いなどを相手に合わせている。	
おしゃべりの価値をわかっており、あたたかいまなざしで見守ることができる。	
初めての利用者、転入してきた人など、特につながりが必要としている人に、声をかけきっかけをつくる。	
場の全体が見えるように身体の向きと位置に気をつけている。	

以下は、来場者の不安を増やし、来場者を遠ざける可能性がある項目です。

- ・相手に自分から挨拶をしない。無視をする。
- ・気分ムラや感情の起伏が激しく、人に気づかれる。
- ・相手を差別する。相手を比較する。
- ・威圧的・指導的にかかわる。
- ・目の前、真後ろなど相手が不安を感じる位置に入り込む。
- ・一方的にしゃべり続ける。
- ・人と人との関係を壊す動きをする。
- ・利用者がある場にいらない。
- ・受付カウンターや事務室の中において、利用者と最低限しか、かかわらない。

課題を知る

- | | |
|---------------------|--------------------------|
| (14) 気軽な相談を大切に受けとめる | (18) 個別の問題を関係性の問題としてとらえる |
| (15) 課題がある親子を発見する | (19) 相手の問題のとらえ方を把握する |
| (16) 人としての存在を尊重する | (20) 寛容な雰囲気をつくる |
| (17) 多様性を受け入れる | |

気軽な相談が深刻な相談の予防になること知っており、何げない会話の中で相談にのる。	
利用者の様子から問題に気づく。	
主張できない子どもであっても、どんなに人として未熟であっても、人としての存在そのものを尊重する。	
人にはさまざまな価値観があり、いろいろな生き方をすることを十分理解し、他者を受け入れることができる。	
子どもが親に影響を与え、親が子どもに影響をあたえるという双方向性を知っている。	
子どもと親の問題を、親子をとりまく対人関係を視野に入れてとらえる。	
日常生活を大切に考えられる。	
相手が何を問題と感じているか、相手がどのようにとらえているかを質問する。	
人はおたがいさまであり、補い合って助け合って一人前であるということを親に伝えている。	
ほど良さや中庸に価値をおき、失敗、未熟さをあたたかく見守る。	

以下は、来場者の不安を増やし、来場者を遠ざける可能性がある項目です。

<ul style="list-style-type: none"> ・場の中にいない。予約相談だけを相談として受ける。 ・母子を一体視し、子どもは親の付属物だと考えている。 ・居住地、経済状況、家族形態、人種、宗教、学歴などによる偏見をもって利用者の判断材料にする。 ・自分の価値観を絶対視し、自分の考えを押しつける。 ・白黒をはっきりさせることを好む。 ・完璧さを求め、未熟なものにイライラを表現する。 ・失敗や試行錯誤をマイナスだと考え非難する。 ・利用者を監視している。施設の管理や規則を最優先する。
--

支援する

- (21) 相手の話を、肯定的関心を持って傾聴する
- (22) 他人の気持ちを想像し、共感的な対応をする
- (23) わかりやすく伝える
- (24) 相手が自分の力に気づく働きかけをする
- (25) 子どもの育ちを支援する
- (26) 特別なニーズを持つ子どもを支援する
- (27) 親と子の関係を支援する
- (28) ねばり強く支援し続ける
- (29) 自分が対応できる親子かどうかの判断をする

話を聴いていることが相手に伝わるような態度（体の向き、あいづち、おうむ返しなど）で示す。	
相手の気持ちに寄り添い、相手にそれを示す。	
わかりやすく話す努力をしている。ことばと態度が一致している。	
よい面を発見し、認めて伝えることができる。	
支援者の肯定的態度が相手の自尊感情を高め、自信を持たせることを知っている。	
子どもは成長の途上にあることに気づかせ、今後の見通しを伝える。	
相手が自分自身で決めたことのほうが、他者に指示されたことよりも行動につながることを認識しており、自己決定を促す。	
双方向のやりとりを大切にして遊ぶ。子どもの応答性を高める働きかけを行なう。	
基本的欲求が充足できていない子どもがわかる。	
障がいと療育の基本的知識をもっており、対応の工夫をする。	
モデルを示す必要がある人に気づき、モデルを示す。	
親に子どものすばらしさを気づかせる。子どもの気持ちを代弁する。	
相手の現実に関ざした具体的問題解決の方法を提示する。	
行動の定着には繰り返しが必要であることを知っている。	
支援には限界があることを知っている。	

以下は、来場者の不安を増やし、来場者を遠ざける可能性がある項目です。

<ul style="list-style-type: none"> ・相手が話しかけてきても対応しない。 ・相手の気持ちが想像できない。 ・相手を認めることができない。人をほめられない。否定的な言い方をする。欠点や誤りを指摘する。 ・子どもと遊べない。 ・子どもの情緒的、行動的問題を母親のかかわりの問題、心理的な問題としてのみとらえる。 ・障がいのある子どもや扱いの難しい子どもを排除する。 ・不適切なモデルを示す。 ・これみよがしにモデルを見せ、相手に「自分ではできない」という感を抱かせる。

振り返る・学ぶ

- (30) チームワークを尊重する
- (31) 活動の分析を行なう
- (32) 実践のために学ぶ

チームワークが支援の質を高めることを知っている。	
建設的に意見を出す。	
他の人の仕事を認める。	
支援の適切さを自ら振り返ることが習慣になっている。	
自分の支援が不適切であったときに気づく。	
実践の中で学ぶ姿勢がある。	
自分の課題を意識して学ぶ。	

以下は、来場者の不安を増やし、来場者を遠ざける可能性がある項目です。

・チームワークを壊す行動をとる。
・会議に参加しない。
・自分の支援がすべて適切だと思っている。
・学ぶ姿勢がない。

参考図書・参考資料

子育てとその支援のあり方について、参考となる資料を支援の場に置いておきましょう。
あれっ?と思ったときが学びのチャンスです。以下に、比較的気楽に読め、イラストや写真が支援の場や活動のイメージを作るために役立つものを挙げておきます。

「子育て広場0123 吉祥寺」 柏木恵子・森下久美子編著 ミネルヴァ書房 1997年
家庭で育つ0才から3才までの子どもとその親のための支援がない!ということに気づいた人たちが、工夫を凝らして地域に親子の集える場を創りました。ひろば型の居場所の原点がここに。

「地域から生まれる支えあいの子育て」 小出まみ著 ひとなる書房 1999年
家庭支援、親支援を支えるカナダの社会システムをたくさんの写真で分かりやすく説明。
カナダの多様な家族への支援は日本でも参考になります。

「社会で子どもを育てる」 武田信子著 平凡社新書 2002年
産むのは母親。環境を整えるのは保護者。でも、育てるのはみんな。
カナダと日本の子育て環境を比較しながら支援の意味を考えましょう。
子どもを基準に考えれば、もっと住みやすい社会が!

「子育てコミュニティスペース運営マニュアル増補版」 ひだまりの会 2002年
広場ってどういうところだろう?何に気をつければいいんだろう?
基本中の基本が、イラストと写真と図表で一目瞭然。広場スタッフ必携。
この冊子を知らずには広場を語れない。

「ひだまり通信」「ひだまり通信2」 ひだまりの会 2003年
イラスト満載で子育てのポイントをわかりやすく解説。
この小冊子を持っていると、子育てが変化して楽しくなるとお母さんたちに大好評。
実は保育士さんたちにとっても秘密のテキスト。

「保育環境評価スケール幼児版・乳児版」
テルマ・ハームス/デビィ・クレア/リチャード・M・クリフォード著 法律文化社 2004年
子どものいる場の環境はどんなふうに整えていけばいいのでしょうか?
場を考えるためのわかりやすい解説を読みながら、一つ一つ丁寧にチェックしてみましょう。
具体的ですぐに役立つ!

おわりに

「子育て支援者のコンピテンシーリスト Ver.3 ひろばスタッフ基礎編」を作成するにあたっては、「Ver.2」を使ってくださった皆さんからいただいた様々なコメントを、大変参考にさせていただきました。ご協力くださった皆さん、どうもありがとうございました。このリストは現場の皆さんと共に成長していきます。今後もぜひ、ご意見・ご感想を研究会までお寄せ下さい。



子育て支援者の コンピテンシーリスト

Ver.3 ひろばスタッフ基礎編

発行 2007年3月12日

発行所 子育て支援者コンピテンシー研究会

- ・本研究は(財)こども未来財団委託による平成18年度児童関連サービス調査研究等事業『子育て支援者のコンピテンシーリストの活用可能性に関する研究』(汐見和恵・渥美由喜・高山静子・武田信子・築地律・今井豊彦)をもとにまとめたものです。
- ・本リストの改変はご遠慮ください。
- ・本リストを活用される場合、およびリストに関するご質問は、下記までご連絡ください。

子育て支援者コンピテンシー研究会 事務局 今井豊彦

E-mail hikotoyo101@yahoo.co.jp

Fax 03-5680-4001

